

要 約

本研究の目的は、中学生の親子関係・友人関係が「自律」に及ぼす影響の発達的变化について、学年差・性差を考慮して検討した。予備調査において、対人関係が「対他的自律」に何らかの影響を与えていることが示唆され、自律性の2側面と考えられる「対他的自律」・「対自的自律」の存在が明らかとなった。そこで本調査では、中学生264名を対象に、自律尺度・親子関係に関する尺度・友人関係に関する尺度という3つの尺度を使用し、質問紙調査を行った。

自律性の発達的变化を検討したところ、1年生から2年生にかけて「対他的自律」が発達し、2年生から3年生にかけて「対自的自律」が発達することが示された。また、1年生は2年生・3年生よりも友人への自己表現に抵抗を感じるということが予想された。

対人関係が自律に及ぼす影響の発達的变化を検討したところ、自律を発達させると考えられる要因として次のような男女差が見られた。男子では「親→親と友人→友人」と親から友人へ移行したのに対し、女子は「友人→親と友人→友人」と再び友人からの影響を受けるといった結果となった。学年ごとに対人関係から自律に受ける影響が異なり、性差もあるということが明らかとなった。